

書評

〔評者〕
川島篤志
福知山市民病院研究研修センター長/総合内科医長



COPD の教科書 呼吸器専門医が教える診療の鉄則 林 清二 監修 倉原 優 著

● A5・頁 348 2016 年 4 月
定価：本体 4,200 円＋税
[ISBN978-4-260-02429-7] 医学書院刊

著者の倉原優先生を紹介する際には、質の高い有名なブログから始まることが多い。隠れファンの 1 人である筆者も、「コストを意識した吸入薬の一覧表」が SNS でアップされていたことをきっかけにコンタクトを取らせてもらった。が、実はまだお会いしたことがない。しかし、そのアプローチが奏功したのか、今回、本書の書評を書かせていただく貴重な機会を頂戴した。医師不足・偏在の存在する地域基幹病院の病院総合内科医として勤務している立場からすると「呼吸器専門医が教える診療の鉄則」であるこの書籍の存在はとても心強い(呼吸器専門医の不足・偏在については日本呼吸器学会からも提言がなされている：http://www.jrs.or.jp/modules/guidelines/index.php?content_id=58)。

COPD のアウトラインについて、歴史や定義だけでなく α の病態(話題の ACOS/CPFE)にも触れておられ、さらには禁煙支援、リハビリテーション・栄養療法、そして人生の最終段階の医療の方法についても言及されているので、“疾患だけでなく、人を診る”ことを意識させてくれる。非呼吸器内科医が毛嫌いする可能性のある吸入薬についても、臨床試験結果をコンパクトにまとめながら、薬価や使い勝手についても併記されている。図表や写真が多用されているので、高い質で

頭を整理するには最適の項目である。さらに第Ⅲ部「ちょっと知りたい COPD の実臨床」には、「前立腺肥大症の併存」など、現場の悩みを共感してくれている臨床的な書籍である。

“わかりやすい COPD の本に”とも表現されているように、軽いタッチで記載されているので多忙な医療従事者でも短時間で通読できる。随所に散りばめられている「ステップアップ COPD」というコラムも心を和ませてくれるが、お笑いセンスの質評価は直接お会いしたときの楽しみにしておこうと思う。強制的に出る息(強制呼気)が、「はっ！」(失礼しました！)となるか、「ふう〜」(……溜息)となるか、今後の臨床スタイルが変わるかも……しれない(詳しくは本書 p. 62 参照)。

最後に、この書籍は「COPD を診療するすべての医療従事者へ」とある(帯より)。“喫煙者”を診療しない内科医・かかりつけ医は皆無である。医療従事者としての矜持があれば、この書籍を手にとって自身の COPD 診療の質向上をめざすか、適切に対応してくれる医師との連携の必要性を COPD 患者さんに伝えてあげてほしい。この書籍の存在が、呼吸器内科医が不足・偏在している日本の COPD 診療の質向上に大きく寄与すると確信する。